

# 害獣として憎まれている鹿との共生を考える多様な関わりしろのデザイン

活動地域  宮城県

復興支援助成

3年目

実践

もやもや食堂の開催

5回

もやもやの種となる  
広報用ツール

3作品

今年度計画の達成度

100%

全体計画の達成度

73%



食べものと食べられるものの境界線

## 課題

人間都合で命を翻弄され、今また害獣の名の下に大きく数を減らされようとしているニホンジカと共生するとはどういうことかを考えること。

## 目標

地域内外での事業参加者が鹿への理解を深めるとともに、新たな関わり方をデザインすることで、同じ環境の中に生きる生命同士として、共生の在り方が多様になるよう模索する。

## 活動内容と成果

農林業被害や生活被害等の獣害により、ネガティブなイメージが染み付いてしまっているように感じるニホンジカに対して、共生の意味を改めて問い直すような活動を行う。

そのために“あでもない”“こうでもない”と共生について悶々とするきっかけを与えるような広報用ツール（作品）をクリエイターと協働し3種類制作した。また、ときには鹿を食べながらそれぞれの共生のあり方に想いを馳せる「もやもや会議」を計5回開催した。

さらには、もやもやしたい、育てたい人が集まり、育苗する場としてシカハウスを整備した。



もやもやの育苗装置であるシカハウス

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

そもそもネガティブなイメージが染み付いている状態から、いかにフラットに、そして割り切りたくなる場所をもやもやとし続けてもらえるかをデザインすることに苦心した。

### ■ 工夫した点

常にユーモアを持たせることを心掛けた。また対立構造に陥らないよう、史実や異文化の風習等を盛り込みつつ、一つの事象に対して様々な方向から話題を投げかけた。



もやもやの種を農園に採りにいく

## 全助成期間の活動を振り返って

ある一つの正解や導きたい方向があるのではなく、人と鹿が同じ環境で生きていく時に生じる軋轢を、人目線で物理的に「邪魔されない」「快適な環境」にデザインすることは仕方がないとしても、心理的に、その軋轢をいかに割り切らないようにできるのか、そのあり方をデザインしようと試みてきた。その結果、素人も職人も関係なくもやもやとテツガクするための装置である「もやもや食堂」に行き着いた。

〒986-2354  
宮城県石巻市桃浦字蛤浜18  
HP : <https://www.hamaguridou.com>



## 今後の展望

「もやもや食堂」をキーコンテンツとして、様々な場所で定期開催しながら、コワーキングスペースならずコ育苗スペースとして、シカハウスを中心に、様々な人たちの「もやもや」を育てていきたい。また、固着された見方から脱するために、今後は様々なクリエイターとの協働を模索し、「もやもや」が生まれるきっかけとなるような作品を制作したい。